

# 子どものレジリエンスと社会情動的スキルに対する インドネシアの保育者の認識と取り組み

ソフィア・ハルタティ、ヌルル・ショフィアティン・ズーロ

## 要旨

このレポートは、インドネシアの幼児教育における4～6歳児の社会情動的スキルとレジリエンスに対する園長と保育者の認識についてまとめたものである。子どもの社会情動的スキルとレジリエンスに対する保育者の認識と取り組みについてデータを得るために、フォーカスグループインタビューと個別インタビューの手法を用いた。具体的には、8カ所の幼稚園から6名の参加者を対象にフォーカスグループインタビューを、9名の参加者を対象に個別インタビューを行った。インタビューでは、保育者が「社会情動的スキル」と「レジリエンス」という言葉をどの程度理解しているか、こうしたスキルを強化するためにどのような取り組みを行っているか(学習のプログラムや活動など)、子どもが困難に直面した時にどのようにサポートしているかに焦点を当て、データを収集した。調査対象の保育者たちは社会情動的スキルとレジリエンスが幼児期において非常に重要であることを理解していた。こうしたスキルは、社会的インタラクションや自己抑制において、そして、様々な社会的困難(新しい場所での適応など)に直面した場合において、園児が必要とするものである。しかし、保育者たちにとって、これらのスキルに対する深い知識の欠如や、保育者養成課程における概念的な資料の不足などが足かせとなっており、インターネット、書籍、文献、ディスカッションを通じて独自に学習していることが判明した。社会情動的スキルは、カリキュラムにも記載されているように、学習における発達活動の焦点となっている。一方、レジリエンスに関しては、レジリエンス強化のために特別なプログラムを実施しているのは8カ所の幼稚園のうち1カ所のみであった。ただし、その園以外の保育者たちが幼稚園で行っている活動には、子どものレジリエンスを強化するような学習活動も含まれていた。このような状況に基づき、レジリエンスの評価は社会情動的スキルよりも限定的なものとなった。この調査の結果は、インドネシアの子どもたちが将来の世界的な困難に直面する準備ができるように、行政と園の両方の観点から、社会情動的スキルと関連性のあるレジリエンスを育成するプログラムをより充実させる必要があることを示している。

**キーワード:** 社会情動的スキル、子どものレジリエンス、インドネシアの幼児教育、保育者の認識、インドネシアにおける幼稚園のプログラムおよび活動、MELESAT

## A. はじめに

インドネシアにおける幼児教育の目的は、子どもたちに様々な刺激を与えて次の教育段階に向かう準備をさせることである。インドネシア教育省によると、幼児教育は新生児から6歳までの子どもを対象に、3つのカテゴリーに分けられている。1番目のカテゴリーはインフォーマル教育で、子どもは家庭で非公式に教育を受ける。これは、子どもが生まれた後、最初の教育は子どもを育てる家族や周囲の環境によってもたらされるという考えに基づいている。このカテゴリーでは、政府は子ども向けの正式な教育を提供しないが、家族が子どもの教育について知識を増やせるような地域社会プログラムを設けている。2番目のカテゴリーはノンフォーマル教育で、公立または私立の保育園が4歳未満の子どもに提供する。ノンフォーマル教育はインドネシア語で「Tempat Penitipan Anak」または「TPA」（保育所の意味）および「Kelompok Bermain」または「KB」（プレイグループの意味）と呼ばれている。3番目のカテゴリーはフォーマル（公式）教育で、Raudhatul Athfal（インドネシア宗教省管轄のイスラム系幼稚園）を含め、5歳から6歳までの子どもを対象に幼稚園プログラムを提供する。幼稚園プログラムは教育省または宗教省の管轄下にあり、公立または私立の幼稚園／保育園によって提供されている。

政府の政策とは別に、インドネシアの文化もまた、質の高い幼児教育・保育を創出するためのプロセスに影響を及ぼす。インドネシアの文化的特徴はカリキュラムなどの教育実践の根底にある価値観を形成している。例えば、幼児教育が海岸地帯の保育園で提供されている場合、子どもたちは海の事について多くのことを学ぶ。これがその保育園の特徴となる。子どもたちは魚の競りを見学し、漁師がどのように船を操縦し、魚を釣り、販売、加工するかを学び、漁師から得た情報に基づいて伝統的な漁船のレプリカを作ったりする。もうひとつの例としては、王室の象徴（力強い文化をもつジャワ王国など）が残っている都市／地区にある幼児教育が挙げられる。子どもたちはジャワの伝統的な衣装、バティック布、伝統的なジャワのゲームなどについて多くのことを学ぶ。こうした文化的アイデンティティに基づいた柔軟な学習の機会を子どもたちに与えることで、有意義な経験が得られ、学びの質を高めることになる。

文化的特徴は、組織的な構造や運営者の観点から、幼児教育・保育で用いる教育・学習のアプローチや、幼児教育・保育施設の運営方法にも影響を与えている。例えば、インドネシア文化では集団性やコミュニティが重視されているが、そのことが教室の集団学習

にも表れている。また、インドネシアでは年長者を敬う文化があるが、これも教室の規律と行動管理を形成する礎となっている。幼児教育・保育施設の運営スタイルは階層や権威を尊重する文化の影響を受けており、施設の運営者は意思決定やコミュニケーションにおいて権威主義的なアプローチをとる傾向がある。運営者はこうした文化を理解した上で、戦略的に施設のスタッフを率いていくことが不可欠となる。文化的規範に合わせて運営スタイルを適応させることにより、施設内のコラボレーション、相互の尊重、効果的なコミュニケーションを促進することができる。

文化的特徴は、子どもの発達に対する親の理解や子育てのアプローチにも影響を及ぼす。子どもに関する概念や子育ての概念は家族や民族性と密接に結びついている。インドネシア人の大半は家父長文化の影響を受けているが、母系社会(ミナンカバウ族など)の存在も根強い。また、性別役割分担の概念により、女性は家族の世話、男性は一家の大黒柱という役割が課されることが多い。

2020年に勃発した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックはインドネシアの教育システムにも打撃を与え、読み書きや計算能力の大幅な学習喪失などが見られた。学校や園では子どもたちへの直接的な接触が制限され、カリキュラム体制を変更することが余儀なくされた。その結果、インドネシアの以前の国家カリキュラムである「2013年カリキュラム」は、学校や園が3つの教育スキームから選択できるように改訂された。1つ目はパンデミック以前に実施されていた「2013年カリキュラム」、2つ目は「Kurikulum Darurat(緊急時カリキュラム)」「(2013年カリキュラム)の簡略版)、3つ目は「プロトタイプカリキュラム」(プロジェクトベースの学習により学習喪失からの回復を支援するコンピテンシー重視のカリキュラム)である。

現在、インドネシア教育省は「プロトタイプカリキュラム」を発展させた「MERDEKA カリキュラム」をあらゆる教育課程(幼児教育を含む)において段階的に導入している。「MERDEKA カリキュラム」は、学校や園が生徒の潜在能力に応じた学習を開発できるように意図したものである。インドネシアの幼児教育カリキュラムは、子どもの様々な発達側面やSTPPA<sup>1</sup>において、宗教・道徳上の価値観、建国五原則(Pancasila<sup>2</sup>)の価値観、身体運動、

---

<sup>1</sup> STPPA(Standar Tingkat Pencapaian Perkembangan Anak Usia Dini: 幼児期の発達到達度基準) はインドネシア政府が定める基準で、子どもが発達と成長のあらゆる側面において到達している能力やスキルの指標。

<sup>2</sup> Pancasila はインドネシア人が信じているイデオロギーで、その価値観は神性、人間性、統一、民主主義、正義を指す。

認知、言語、社会情動面など、ホリスティックな発達を促進するよう設計されている。この理念は、教育文化大臣令 2023 年第5号「幼児教育、初等教育、中等教育における卒業要件基準」にも述べられている。この「MERDEKA カリキュラム」は子どもたちが次の教育段階に進む前に堅固な基盤を築くことを目的としている。

「MERDEKA カリキュラム」を採用する場合、学校や園はカリキュラム運用文書を作成するよう義務付けられている。この文書には学校環境、人的資源の能力、地域社会の状況（幼児教育を提供している所や保護者の職業などの要因も含む）の分析データを記載するようになっている。学校や園は、実施した分析結果に基づき、各々の現状を踏まえたビジョンやミッション、学習法を策定し、それが学校や園の特色となる。例えば、幼児教育では、子どもたちは園が所有する本から得たトピック、園に行く途中や遠足の授業などで遭遇する周辺環境の観察で得たトピックについて学ぶことができる。

教育文化大臣令 2014 年第 137 号「幼児教育国家基準」では、幼児期の社会情動的発達について具体的な説明が述べられている。特に、年齢層（生後3ヵ月から6歳まで）に基づいた幼児期の社会情動的発達について記述されており、自己認識（自分の能力、感情、自制心を認識する能力や他者に適応する能力）、自分と他者に対する責任感、社会性のある行動などが取り上げられている。レジリエンスについてはカリキュラムの中で明確な言及はないが、「MERDEKA カリキュラム」のプロジェクトベースの学習プロセスでは、子どもが失敗を経験し、自分で解決策を探ることができるようになっている。クラスメートとの社会的な活動には社会情動的スキルも関わってくる。いずれも幼児期におけるレジリエンスの発達を促すものである。さらに、保育者は就労前と就労中に研修を受講し、社会情動的スキルの概念、子どもの社会情動的スキルのマイルストーンが年齢ごとにどのように結びついているか、こうした社会情動的スキルをどのように育成するかについて学ぶ。従って、子どもの社会情動的スキルの概念は保育者たちに広く理解されている。

このように、インドネシアにおける政策と文化の役割は、特に幼児期のレジリエンスと社会情動的スキルの育成において、質の高い幼児教育・保育の創出に大きく貢献している。様々な政策、地域社会の文化的価値観、家族という相乗効果により、幼児期のホリスティックなニーズを考慮した包括的かつ子ども中心の幼児教育・保育環境を構築することができる。「MERDEKA カリキュラム」として知られる現在のインドネシアのカリキュラムは、学校や園に文脈的アプローチでカリキュラムを開発する機会を提供している。学校や園は各々の環境

条件(生徒、保護者、地域社会、教育リソースなど)を分析する機会が与えられ、これがカリキュラムを考案する基盤となる。このカリキュラムは身体的、認知的、社会情動的側面やレジリエンスの育成を含め、子どもの発達段階に応じた個別化学習を提供する。

このレポートは、チャイルド・リサーチ・ネット(CRN)との提携によりインドネシアで実施した調査に基づいて作成されている。この調査は、子どもの社会情動的スキルとレジリエンスに対する保育者の認識と、これらのスキルが園でどのように実践され、どのような取り組みが行われているかを把握することを目的としている。この調査では、主任保育者と園長を対象に、4～6歳児の「レジリエンス」と、これに関連する「社会情動的スキル」の育成について調査した。この調査は予備調査と主調査の2部で構成されており、予備調査の目的は主調査のインタビュー設問設定のためにデータを取得することであった。一方、主調査は、「レジリエンス」と「社会情動的スキル」という言葉に対する園長、主任保育者、保育者の認識を把握し、子どものレジリエンスを促進するための彼らの取り組みについて調査することを目的とした。

## B. 園長・主任保育者とのインタビュー結果の分析(予備調査)

### 1. 「社会情動的スキル」という言葉に対する園長・主任保育者の認識

予備調査では、社会情動的スキルの認識について、園長と主任保育者6名に質問を行った。彼らは幼児教育において長年の経験を有している。インタビューの結果、6名のうち1名(副園長)は「社会情動的スキル」について聞いたことがあり、その意味を知っていたが、残りの5名はその意味を少ししか知らなかった。彼らの大半が子どもの社会情動的スキルを「自分の感情を管理する能力や他人と関わる能力」として理解していたが、社会的環境に適応する子どもの能力に言及した者もいた(下記の表を参照)。

表 1: 「社会情動的スキル」という言葉に対する園長と主任保育者の理解度

「社会情動的スキル」という言葉に対する理解度	園長	副園長	主任保育者
ことばを知っており意味もよく知っている	0	1	0
ことばを知っており意味は少し知っている	2	0	3

ことばは知っているが意味は知らない	0	0	0
ことばも意味も知らない	0	0	0

インドネシアの幼児教育施設の主任保育者が幼児期における社会情動的スキルについて理解していることは、効果的な教育プログラムを開発する上で重要な鍵となる。主任保育者は経験と蓄積された知識を有しており、社会情動的スキルが子どもの人格や適応力の形成に重要な役割を果たすことを理解している。そして、このスキルを幼児期から育成することにより、子どものホリスティックにバランスのとれた成長を促進することを認識している。幼児教育施設の主任保育者を対象とした現場のデータによると、彼らは社会情動的スキルを、感情の認識とマネジメント、効果的なコミュニケーションスキル、共感力、協調性、対立解決などのスキルとして理解していることが明らかになっている。主任保育者たちは、学習とは、学問的な知識だけではなく、子どもが自分自身を理解し、社会環境とうまく関わっているように手助けするものだとして認識していた。

社会情動的スキルに対する主任保育者の理解度は、様々な要因によって影響を受けている。保育者は専門家養成プログラム(PPG: Program Profesi Guru。保育者の免許状を取得するための政府による国家養成プログラム)で特別な研修を受け、社会情動的スキルの概念に対する理解を深める。しかし、保育者の中には、専門家養成プログラムを受ける資格をもたない者もあり、その結果、社会情動的スキルの知識が限定的になってしまうため、即座にインターネットで検索してその概念を調べたと、調査で答える者もいた。さらに、社会情動的スキルに対する主任保育者の理解度は、教育現場での勤務経験の影響も受けている。この経験は、社会情動的スキルの概念をより深く、より詳細に理解するのに役立っている。

さらに、幼児教育施設の運営者の役割も社会情動的スキルに対する主任保育者の理解度に影響を与えている。社会情動的スキルの発達を支援し、奨励している園長や施設長は、保育者たちがこのスキルについて学び、能力を向上させられるような職場環境を提供する可能性が高い。しかしながら、インタビューの結果は、運営者が社会情動的スキルの育成をあまり支持していない場合、社会情動的スキルを教えるための理解を深めたり能力を向上させたりしようとする主任保育者の意欲が低くなることを示している。

## 2. 「レジリエンス」という言葉に対する園長・主任保育者の認識

園長・主任保育者としての役割を担う6名のインタビュー対象者に「レジリエンス」をどのように認識しているかを尋ねた。2名の園長(園長と副園長)は「レジリエンス」という言葉は聞いたことがあるが意味は知らないと答え、残りの4名は聞いたことがあり、意味も少し知っていると答えていた。彼らは「レジリエンス」を、精神的な健康と全体的なウェルビーイングを形成するために、新しい環境で他者と交流し、新しい人々と出会い、困難に対処する中で生き抜こうとする子どもの能力であると解釈していた。例えば、子どもは健康的な食事をとり、運動し、十分な休息をとることで、クラスメートや保育者などの他人を手助けし、自分の健康状態を理解できるようになると述べている。

下記の表は、園長と主任保育者の理解度についてまとめたものである。

表 2: 「レジリエンス」という言葉に対する園長と主任保育者の理解度

「レジリエンス」という言葉に対する理解度	園長	副園長	主任保育者
ことばを知っており意味もよく知っている	0	0	0
ことばを知っており意味は少し知っている	1	0	3
ことばは知っているが意味は知らない	1	1	0
ことばも意味も知らない	0	0	0

インドネシアにおける幼児教育施設の主任保育者が幼児期のレジリエンスについて理解することは、子どものホリスティックな発達を支える教育環境を構築する上でも重要である。幼児期における「レジリエンス」という言葉について少し知っていた主任保育者は、レジリエンスとは、子どもが困難、ストレス、失敗に直面しても、それを乗り越え、立ち直り、前向きに成長する能力であると認識している。彼らは、レジリエンスが子どもの人格を形成し、将来の変化やプレッシャーに直面する準備を整える上で重要な側面であることを理解している。レジリエンスを理解している主任保育者たちは、レジリエンスの概念をクラスでの指導や学習アプローチに組み入れようとする傾向が見られた。彼らは子どもたちが挑戦し、失敗し、経験から学ぶことが奨励されていると感じるような、安全でオープンかつ愛情に満ちた学習環境

をつくろうと努力している。このアプローチは子どもたちが困難に立ち向かう自信とレジリエンスを育むのに役立っている。

しかし、全ての主任保育者たちが幼児期のレジリエンスについて十分に理解しているわけではない。彼らの中には、この概念を初めて聞いた者もいる。レジリエンスに関するインタビューで「レジリエンス」という言葉を知り、書籍、文献、インターネット、同僚との話し合いなど、様々な情報源に当たって調べ、「レジリエンス」の意味を自分なりに解釈している保育者もいた。それにもかかわらず、調査で得たデータによると、保育者たちは教育現場で子どもたちの活動を通じてレジリエンスの育成を実践していた。このことについては、次のセクションで説明する。

### 3. レジリエンスと、関連する社会情動的スキルを育成するために園長／主任保育者の施設で実践されている特別な活動と取り組み

主任保育者が幼児期のレジリエンスとこれに関連する社会情動的スキルを育成するために通常実践している特別な活動と取り組みは、子どもの人格と適応力を形成する上で非常に重要な役割を果たしている。主任保育者は子どもが困難に直面し、社会情動的スキルや人生の失敗から立ち直る能力を育成する必要性を深く理解している。予備調査の結果、インドネシアの幼児教育施設の主任保育者は、幼児期におけるレジリエンスや社会情動的スキルを育成するために特別な活動や取り組みを多く実施していることが判明した。

まず、主任保育者たちが実施している活動の1つとして、協力的で安全な学習環境の構築が挙げられる。子どもたちが安心していろいろ実験し、学び、成長できるようにするには、肯定的で愛情に満ちた環境が必須である。主任保育者たちは、子どもが失敗や否定的な評価を恐れることなく、新しいことに挑戦することが奨励されていると感じられる環境をつくることに尽力している。彼らはさらに、協調性、分かち合い精神、対立解決力など、子どもの社会情動的スキルの発達を促すような遊びの活動を取り入れていると述べている。遊びは子どもが社会情動的スキルを学び、発達させる自然な方法である。主任保育者たちは、協調性、効果的なコミュニケーション力、対立解決力の大切さを子どもたちに教えることを目的としたゲームや活動を考案している。

主任保育者たちは実際の体験や体験学習を重視した活動も取り入れている。彼らは、遠足、自然観察、社会奉仕活動への参加など、子どもたちを保育室の外に連れ出している。子どもたちはこうした実地経験を通じて社会的インタラクション、意思決定、実践的な問題解決について学ぶ。これらは全て育成すべき重要な社会情動的スキルである。

主任保育者たちはさらに、子どもたちに感情とそのマネジメント方法について教える活動も実践していると答えている。絵本、ロールプレイ、グループディスカッションなどを利用して、子どもたちが自分の感情を認識し、適切に表現できるように手助けしている。また、深呼吸する、自分の気持ちを話す、困ったことがあったら友達と共有するなど、情動のマネジメント方法も教えている。

さらに主任保育者たちは、休憩時間や昼食時間など、保育の正課外の時間を利用して、子どもたちの社会情動的スキルを育成するような活動も取り入れていると述べていた。子どもたちが正課の学びの枠外で友達と交流し、遊び、分かち合うよう促している。そうすることにより、子どもたちは安心して社会的インタラクションを楽しみ、日常の中で社会情動的スキルを育むことができる。

主任保育者たちはさらに、子どもたちが特定の目標を達成するためにグループで協力し合う協調学習を重視した活動も取り入れている。グループプロジェクトやチームゲームなど、子どもたちの協調性を必要とするタスクを割り当て、このタスクを通じて子どもたちは協調、効果的なコミュニケーション、各グループメンバーの貢献に感謝することの大切さを学ぶ。また、主任保育者たちは物語やおとぎ話を使って、子どもたちに忍耐力、レジリエンス、自信を教えている。登場人物が困難に直面しても社会情動的スキルとレジリエンスで乗り越える物語を選び、それを読み聞かせることで、子どもたちは自分も人生の困難に立ち向かうための強さやレジリエンスをもつことができることを学ぶ。主任保育者たちはさらに、子どもたちに共感することや違いを尊重することを教える活動も行っていると述べていた。ロールプレイ、グループディスカッション、芸術的な活動を取り入れ、子どもたちが他人の気持ちや経験を理解できるように手助けする。他人の考え方を理解することで、子どもたちは多様性を受け入れ、他人と気持ちの通じ合える関係を築くことを学ぶ。

主任保育者たちは、保育室で自らの行動を通じて前向きな模範を示している。例えば、困難や対立に直面した時に、冷静で忍耐強く、理解ある態度を示す。自ら良い模範を示すことで子どもたちの行動や態度に影響を与え、日常生活に役立つ社会情動的スキル

の発達を助けている。主任保育者たちの最後の戦略は、子どもたちのレジリエンスと社会情動的スキルの育成を目的とした活動に保護者も関与させることである。保護者懇談会、ワークショップ、家族イベントなどを設け、保護者が家庭で子どもの発達を支えることができるよう手助けしている。主任保育者たちは、保護者を関与させることで、子どもたちの社会情動的スキルの学びと発達が園だけではなく家庭環境でも確実に行われるようにしていた。

#### 4. レジリエンスと社会情動的スキルを育成するために幼児教育・保育施設で実施されている教育プログラムと教材

幼児教育・保育施設で日常的かつ頻繁に実施される教育プログラムと教材は、幼児期のレジリエンスと社会情動的スキルを育成する上で重要な役割を果たす。ここでは、幼児のレジリエンスと社会情動的スキルの発達を支える学習環境をつくるために、インドネシアの幼児教育施設でどのような教育プログラムや教材が用いられているかについて、園長と主任保育者の回答を分析した結果をいくつか説明する。

主任保育者たちは、幼児教育施設で社会情動的スキルの発達を促す活動が採用されていると答えている。これらのプログラムは、子どもたちが協調性、効果的なコミュニケーション、共感力、けんかの対処などのスキルを身につけられるように設計されている。彼らはグループゲーム、ロールプレイ、ディスカッションなどの様々な活動を用い、子どもたちが日常の交流における社会情動的スキルの大切さを理解できるように手助けしている。

この調査の回答によると、彼らの幼児教育施設では感情や情動のマネジメントに関する教材も用いられている。子どもたちは自分の感情を適切に認識し、表現することや、強い感情や否定的な感情を制御する方法を学ぶ。これは、子どもたちが自分自身を理解し、困難やフラストレーションを克服するスキルを身につける手助けとなる。

さらに、忍耐力、粘り強さ、レジリエンスに関する教材も幼児教育カリキュラムに含まれている。子どもたちは困難や失敗に直面しても諦めずに粘り強く続けることの大切さを学ぶ。主任保育者たちは、子どもの強い精神的態度や努力し続ける意志を育むために、物語やゲームなどの活動を利用していると答えている。

主任保育者たちは、レジリエンスと社会情動的スキルを育成するために、プロジェクトベースの学習プログラムも彼らの幼児教育施設で実施していると述べている。子どもたち

には、グループで協力しあい、困難なプロジェクトや課題に取り組む機会が与えられる。子どもたちは、このプロセスを通じて、協力し合い、アイデアを分かち合い、共に問題を解決する方法を学ぶ。これらは重要な社会情動的スキルでもある。

この調査の結果はさらに、幼児教育施設で子どもたちのレジリエンスと社会情動的スキルの育成を目的とした課外活動や保育室外の活動がどのように行われているかも示している。例としては、老人ホーム訪問などの社会奉仕活動や植樹などの環境保護活動などが挙げられる。子どもたちはこうした活動に参加することで、共感力、多様性の尊重、社会貢献の大切さを学ぶ。さらに、幼児教育カリキュラムでは意思決定と問題解決が重視されることが多い。子どもたちは日常生活で直面する問題を解決するための方法や、困難に直面した時の批判的／創造的思考の大切さを学ぶ。これにより、子どもたちが複雑な状況に対処し、適切な決定を下す能力を身につける手助けをする。

回答者たちは遊びの活動も社会情動的スキルの育成に重要であると述べている。子どもたちは遊び(楽しく熱中しながら学べるゲームなど)を通じて、分かち合うこと、コミュニケーションを行うこと、協力し合うことなどの社会情動的スキルを学ぶ。この方法は、子どもたちが社会的インタラクションにおける社会情動的スキルの大切さを理解するのに役立つ。さらに、彼らの幼児教育施設では、自尊心や他人の気持ちを尊重することも教えている。子どもたちは自分の独自性や成果を受け入れ、他人の貢献や成果を尊重するよう教えられる。このことは、子どもたちが健全な自信や、他人を思いやるスキルを身につける助けとなる。

協調性やチームワークに関する学習プログラムも幼児教育施設で実施されていた。子どもたちには、グループで協力し合い、特定のタスクやプロジェクトに取り組む機会が与えられる。子どもたちは、このプロセスを通じて、協力し合い、アイデアを分かち合い、各グループメンバーの貢献に感謝することを学ぶ。これらは重要な社会情動的スキルでもある。さらに、6名の保育者のうち2名は、違いを尊重することを子どもたちに教える活動も取り入れていた。子どもたちは、文化や宗教などの生い立ちの多様性を尊重し、自分と違うところがある人々と積極的に交流する方法を学ぶ。これは、ますます多様化する社会において適切な社会情動的スキルを身につけるのに役立つ。6名の保育者のうち2名は、幼児教育施設での活動を通じて教える効果的なコミュニケーションや相手の話に耳を傾ける方法について言及している。子どもたちは、自分の考えや感情を明確かつ効果的に伝える方法や、

他人の話に注意深く耳を傾ける方法を教えられる。これは、社会的インタラクションを上手に行うために重要なコミュニケーションスキルを身につけるのに役立つ。

また幼児教育施設では、子どもたちに責任とリーダーシップについて教える活動も行っていった。子どもたちは自分の行動や判断に責任をもつこと、共通の目標を達成するために仲間を先導し、意欲を高める方法を教えられる。これは、子どもたちにリーダーシップスキルを育て、日常生活において責任ある態度を身につけるのに役立つ。

## C. 保育者とのインタビュー結果の分析(主調査)

### 1. 「社会情動的スキル」という言葉に対する保育者の認識

インドネシアでは保育者の数が限られているため、保育者は園で複数の役割を担っている。幼児教育・保育施設の要員数は、公私いずれの園においても園児の数によって異なる。この調査は、インドネシアの5つの主要な島において幼児教育分野で働く9名の保育者を対象に実施した。本調査のデータは2023年11月から2024年2月までの期間に収集したものである。

9名のインタビュー対象者に社会情動的スキルの認識について尋ねたところ、その意味をよく知っている人はいなかった。インタビュー対象者は園長5名、主任保育者2名、保育者2名で構成されているが、いずれも社会情動的スキルの意味を少し知っている程度であった(下記の表を参照)。

表 3: 「社会情動的スキル」という言葉に対する保育者の理解度

「社会情動的スキル」という言葉に対する理解度	園長	主任保育者／保育者
ことばを知っており意味もよく知っている	0	0
ことばを知っており意味は少し知っている	5	4
ことばは知っているが意味は知らない	0	0
ことばも意味も知らない	0	0

インドネシアの保育者の「社会情動的スキル」に対する認識は、大学での経験、ワークショップ、セミナー、ディスカッションへの参加、学歴など、様々な要因によって影響を受け

ている。ここでは、インタビューの結果に基づいて、保育者の理解がどのように形成され、それが保育者の教育実践にどのような影響を与えているかを説明する。

まず、大学での経験は、保育者の社会情動的スキルの理解を形成する主要な基盤となる。発達心理学、人格教育、幼児教育法などの課程は、幼児期の学習における社会情動的側面の重要性を理解するのに役立つ。さらに、ワークショップ、セミナー、ディスカッションへの参加は、保育者にとって社会情動的スキルの理解を深める機会となる。保育者たちの回答は、革新的な教育戦略を学び、他の教育者から洞察を得て、幼児期における社会情動的スキルの発達に関連する困難に直面した子どもたちの経験を共有してきたことを示している。

主任保育者はまた、協調性と創造性を重視したプロジェクトベースの学習活動(P5プロジェクトなど)も取り入れていると述べている。これらのプロジェクト活動は、子どもたちがグループで協力し合い、特定のタスクやプロジェクトに取り組むものである。子どもたちは、このプロセスを通じて、協力し合い、アイデアを分かち合い、共に問題を解決する方法を学ぶ。これらは全て重要な社会情動的スキルである。

しかし、インドネシアの保育者の大半は、こうした知識を得る困難さや認識の違いにもかかわらず、幼児期における社会情動的スキルの発達の重要性を認識している。彼らは、社会情動的スキルが子どもの将来において学業および社会的成功のための重要な基盤になることを理解している。

近年では、ますます多くの保育者がホリスティックな幼児教育アプローチを採用し始めており、社会情動的スキルの育成を教育カリキュラムに組み込んでいる。「学び」とは、単に優れた学業成績を達成するだけでなく、子どもたちが社会的および情緒的にバランスのとれた人間になるのを手助けすることだと理解しているからである。

## 2. 「レジリエンス」という言葉に対する保育者の認識

本セクションでは、9名を対象にインタビューを行った結果を述べる。9名のうち3名は「レジリエンス」という言葉を聞いたことがあり、その意味をよく知っていたが、他の5名は聞

いたことはあるが意味は少ししか知らず、残りの1名は聞いたことがあっても意味は知らなかった。彼らは「レジリエンス」をあらゆる困難、失敗、ストレスから立ち直る子どもの能力と定義していた。また、園児のレジリエンスの育成をサポートする保育者の役割にもレジリエンスは関係していると述べていた。

表 4: 「レジリエンス」という言葉に対する保育者の理解度

「レジリエンス」という言葉に対する理解度	園長	保育者
ことばを知っており意味もよく知っている	2	1
ことばを知っており意味は少し知っている	3	2
ことばは知っているが意味は知らない	0	1
ことばも意味も知らない	0	0

9名の回答者は皆、「レジリエンス」という言葉を聞いたことがあった。園長2名と保育者1名はレジリエンスの意味を知っており、理解していると述べたが、他の5名は聞いたことがあっても、その意味については少ししか知らなかったと述べた。これは、教育カリキュラムや保育者研修でレジリエンスの概念が取り上げられていないこと、あるいは、子どもの発達におけるレジリエンスの重要性について単に認識が不足していることが原因であると思われる。

8カ所の幼稚園のうち1カ所の園は、園児のレジリエンスの育成に焦点を当てた MELESAT と呼ばれる特別なプログラム(園の災害カリキュラムに属する)を実施していた。大半の幼児教育施設はレジリエンスを育むための特別なプログラムを提供していないものの、インタビューの結果、保育者は園児中心の学習や問題解決ベースの学習など、日常の学習の中でレジリエンスの発達を促すような活動をいくつか行っていることが明らかになった。

保育者たちにレジリエンスの概念について説明し、幼児教育における具体的な例を示すと、レジリエンスの重要性について理解し始めた。レジリエンスとは逆境から立ち直り、障害を乗り越え、変化に適応する人間の能力を意味すること、これら全てが子どもの発達にとって重要なスキルであることを認識するようになった。

### 3. レジリエンスと、関連する社会情動的スキルを育成するために保育者が実践している特別な活動や取り組み

幼児教育・保育 (ECCE) は、子どものレジリエンスとこれに関連する社会情動的スキルの育成において重要な役割を担っている。インタビューの結果、保育者たちの中にはこれらのスキルの育成を促進するために設計された様々な活動や取り組みを実践していることが明らかになった。ここでは、保育者たちがこの目的を達成するために行う特別な活動と取り組みについて、現場の具体的な例を取り上げて説明する。

まず、保育者たちが実践しているレジリエンスの育成に関連する活動の1つとして、ゲームや身体活動が挙げられる。グループゲームやチームゲームなどのゲームは、子どもたちが失敗や不確実性に対するレジリエンスを育むのに役立つ。例えば、課題や競争を伴うグループゲームでは、子どもたちは協力し合い、失敗を乗り越え、負けたことから立ち直ることを学ぶ。

さらに、物語やおとぎ話を活用してレジリエンスを育むことも一般的に行われていた。これらの物語では、困難や窮状に直面しながらも最終的には上手く乗り越える登場人物が描かれていることが多い。子どもたちは、こうした物語を通して、楽観的であり続け、粘り強く、直面する問題に対して創造的な解決策を見つけることの大切さを学ぶことができる。

1人の保育者は、グループ学習における協力的な活動も、子どもたちの社会情動的スキルとレジリエンスを強化するのに役立つと述べており、芸術品を作成したり、モデルを構築したりする共同プロジェクトを例として取り上げ、子どもたちが共に協調性、コミュニケーション力、問題解決力を学ぶのに役立つと説明している。子どもたちは、こうしたプロセスを通じて、協力して困難に立ち向かい、グループ内でいざこざが発生すればこれを上手く解決する方法を学ぶ。

さらに、内省を促す活動も子どもたちがレジリエンスを養うのに役立つ。保育者たちは、子どもが自分の経験を振り返り、自分の気持ちを理解し、直面している問題を克服するための解決策を考えることができるように、グループディスカッションや日記<sup>3</sup>を書く活動の時

---

<sup>3</sup> 保育者は、クラス活動の最後に、子どもたちに各々の気持ちについて尋ねるか、何か悲しいことがあったかどうかを尋ねる。留意すべき点があれば、それを書き留め、次のミーティングで子どものニーズを強化するために保育者が何をすべきかを分析し、評価する。必要に応じて、学期末のレポートにも記載する。

間を設けていると述べていた。例えば、友達と対立した後、子どもたちはその状況から何を学んだのか、そして今後は対立したときにどう対処すれば良いのかを考えるように求められる。

保育者たちはさらに、子どもたちが感情やストレスを管理するのを手助けするために、リラクゼーションやマインドフルネスのテクニックも活用していると述べている。例えば、ストレスの多い状況で心を落ち着かせるために、深呼吸や簡単な瞑想のやり方を教えるなどである。子どもたちは、こうしたテクニックを通じて、自分の感情を効果的に認識し、マネジメントすることを学ぶ。

保育者たちの回答によると、報酬と強化のアプローチも、子どもたちの社会情動的スキルとレジリエンスの発達に重要な役割を果たしていることが明らかになった。保育者たちは、子どもが前向きな行動を見せたり困難を克服したりした時に、しっかり褒め、評価するという方法をとる。例えば、子どもが難しい課題をやり遂げた時や、困っている友達を助けた時に、保育者は子どもを褒めることによりその行動を積極的に強化する。

ある回答者は、問題解決スキルを教える活動も、保育者がレジリエンスを育成する重要な部分であるとコメントしている。子どもたちは、問題を特定し、その問題を克服するための戦略を立て、見つけた解決策を評価するように教えられる。例えば、問題解決の活動では、子どもたちは一定の負荷に耐えられる簡単な材料で橋を設計し、作ることを求められる。

さらに、独立心や責任を促す活動もレジリエンスの発達に寄与する。保育者たちは、子どもたちが自発的に行動し、自分で判断し、自分の課題を何とかやりとげる機会を提供していると述べている。例えば、子どもたちは自分でプロジェクトを計画し、実行する活動により、自分の行動と判断に責任をもつことを学ぶ。

多様性を尊重することを促す活動もまた、社会情動的スキルとレジリエンスの発達に重要である。保育者たちは、文化的背景、民族性、能力などの観点から、子どもたちの間で差異や多様性を尊重することを促しているとコメントしている。子どもたちは、多様性を尊重することに重点を置いた活動を通じて、相手の違いを認めて受け入れ、互いに助け合うインクルーシブな関係を築くことを学ぶ。

さらに、効果的なコミュニケーションを必要とする活動も、社会情動的スキルとレジリエンスの発達に重要な役割を果たす。保育者たちは、子どもたちがはっきりとしたコミュニケ

ーションをとること、相手の話を注意深く聞くこと、自分の考えや気持ちを適切に表現することを練習する機会を多く提供していた。例えば、グループディスカッションでは、子どもたちは互いの意見に耳を傾け、友達のアイディアについて建設的に応じるよう学ぶことができる。

最後に、協調性や連帯感を促す活動も、社会情動的スキルとレジリエンスの発達に重要である。保育者たちは、子どもたちがグループで協力し合い、アイデアを分かち合い、共に課題に取り組む機会を設けていると述べていた。例えば、共同プロジェクトでは、子どもたちは互いに助け合い、協力し合い、各グループメンバーの貢献を尊重することを学ぶ。

#### 4. レジリエンスと社会情動的スキルを育成するために幼児教育・保育施設で実践している教育プログラムと教材

通常、幼児教育・保育施設で導入している子どものレジリエンスと社会情動的スキルの育成につながる教育プログラムや教材には、子どもの発達上のニーズを満たすために特別に設計された様々なアプローチや手法が含まれている。身体活動、社会的インタラクションから感情を理解することまで、学びの様々な側面が幼児教育・保育カリキュラムに組み込まれていることが多く、ホリスティックかつ包括的な学習体験を提供している。

インタビューを受けた保育者たちによると、幼児教育施設で一般的に使用しているアプローチの1つは日常的な遊びであった。子どもたちは、遊びを通して、粗大運動スキル（体全体を使う運動）や微細運動スキル（指先を使う運動）を発達させるだけでなく、苛立つようなことを克服し、分かち合うことや友達と交流することを学ぶレジリエンスも身につける。グループゲーム、パズル、芸術的活動などの遊びを通して、子どもたちは協力して問題を解決することを学ぶ。保育者たちはさらに、物語やおとぎ話を通して学ぶことも幼児教育プログラムの不可欠な部分であると述べている。保育者たちが注意深く選んだ物語は、子どもたちに日常生活の障害や困難に対処する方法のロールモデルを提供する。保育者たちは、粘り強さ、楽観性、協調性などの価値観を例示するような物語を選べば、子どもたちのレジリエンスの発達の基盤を築く一助となる。

インタビューの結果、幼児教育施設では社会情動的スキルの発達につながる活動をカリキュラムの一部として組み入れていることが確認された。これには、分かち合うこと、共感すること、自己制御すること、対立をうまく解決することについて学ぶことが含まれる。子

もたちは、ロールプレイや現実世界の真似をする遊びなどの活動を通じて、前向きで有意義な方法で他者と交流する方法を学ぶ。保育者たちはまた、幼児教育施設で感情の理解を促す教材を使用しており、これも子どものレジリエンスと社会情動的スキルを育成する上で重要であるとコメントしている。保育者たちは、感情について話し合う、感情ボードを作成する、感情の表現に関する本を読むなどの活動を取り入れ、子どもたちが自分の感情を認識し、健全かつ建設的な方法で表現できるよう手助けしている。

保育者たちによると、幼児教育施設における社会情動的スキルとレジリエンスの育成活動には、問題解決の要素も含まれている。子どもたちは、問題を特定し、問題を解決するための戦略を立て、その結果を評価することを教えられる。これにより、成長した後も自信をもって効果的に困難に立ち向かえるように手助けする。

インタビューの回答をみると、園では、子どもたちの社会情動的スキルとレジリエンスを強化するために、日常活動の一部として報酬と強化のアプローチが採用されていることが明らかになった。子どもたちは保育者から良い行動を褒められ、評価されると、それが励みになり、良い行動を続けるようになり、自信をもって困難を乗り越えられるようになる。また、ある保育者は、子どもたちが自分の行動や判断に責任をもつことの大切さを理解できるように、責任に関する教材も幼児教育・保育カリキュラムに組み入れているとコメントしていた。これには小さなプロジェクトの計画と運営などの活動が含まれ、子どもたちに自発性と独立心を示す機会を与えている。

社会情動的スキルの発達に重点を置くアプローチには、共感的な行動を育むための活動も含まれていた。子どもたちは、相手がどう感じているかを理解し、感じることで、そして思いやりと理解をもって対応する方法を教えられる。これは、子どもたちの間で健全な助け合いの関係を築くのに役立つ。さらに、レジリエンス育成プログラムには、苛立ちや失敗を受けとめる学びも含まれている。インタビューを受けた保育者の1人は、MELESAT と呼ばれるプログラムについて言及していた。MELESAT (Mathematics, Existence, Literacy, Engineering, Science, Art) は、調査対象の幼稚園のうちの1つによって実施されているカリキュラムで、数学、道徳、読み書き、工学、科学、芸術の教材を用い、習慣化活動、教材コンテンツ、プロジェクトベースの学習を通じて、災害状況に対処する方法を教える学習モデルである。子どもたちは、間違えることは学びの自然な一部であり、失敗した後に立ち直ること

が重要であると学ぶ。このことは、優れたレジリエンスと困難に対する前向きな姿勢を育むのに役立つ。

## 5. レジリエンスと、関連する社会情動的スキルの評価および評価ツールの使用と内容

保育者が幼児期の社会情動的スキルを測定するために評価および評価ツールを使用することは、子どもの適切な発達を確保し、効果的なフィードバックを提供するためにも重要である。この評価ツールは、発達段階における子どもの性質とニーズに合わせて使用しなければならない。

保育者たちが言及した評価ツールの1つは直接観察することである。保育者たちは、社会的インタラクション、遊び、グループ活動を行っている子どもたちの行動に注意して観察することにより、子どもの社会情動的スキルの状況を直接把握し、子どもが特定の発達目標をどの程度達成しているかを評価するのに役立たせている。

## 6. 子どものレジリエンスと、関連する社会情動的スキルの習得に関する保護者へのフィードバックの提供と内容

保育者たちが保護者に提供しているフィードバックには、社会情動的スキルの発達における子どもたちの進捗評価が含まれている。フィードバックには、クラスでの子どもたちの行動、クラスメートとの交流、社会生活への参加について、主に保育者が観察したことが述べられ、さらに、社会情動的スキルを育成するために保育室で行われている取り組みに関する情報も含まれている。

## D. 考察

インタビューデータを分析した結果、幼児期におけるインドネシアの子どもたちの社会情動的スキルには大きなばらつきが見受けられた。大半の子どもたちは、クラスメートと交流する能力、感情を適切に表現する能力、健全な方法で対立を解決する能力など、社会情動的スキルの発達において依然として困難に直面している。ただし、子どもたちの社会情動的

スキルにばらつきがあることは、社会情動的スキルの発達に影響を及ぼす個人的な要因があることを示唆していることにも注意する必要がある。

子どもの社会情動的スキルを強化するには、まず保育者が社会情動的スキルについて正しい知識を身につけ、理解を深める必要がある。主任保育者の社会情動的スキルの理解に関しては、各保育者が各々の経験、生い立ち、個人的な信念に基づいた独自の視点をもっていることに留意する必要がある。従って、主任保育者たちは互いの連携とディスカッションを通じて経験を共有し、社会情動的スキルの理解を深めることが効果的な方法と言えよう。社会情動的スキルを教える際に困難や複雑さに直面する場合、主任保育者が高い自己認識をもち、積極的に学習を続けることが重要となる。主任保育者たちは、幼児期のニーズの変化に対応し、教育現場で生じる可能性のある困難に適応する準備ができていなくてはならない。

例えば、保育者たちが多人数の保育室、多様な個々のニーズ、幼稚園や保育者としての管理タスクの遂行というプレッシャーなどの障害に直面していると、これら全てが社会情動的スキルの発達に使用できる時間とリソースを制限しかねない。保育者たちは、子どもの社会情動的スキルを育成するための様々な努力をすることで、こうした困難を乗り越えている。また、ロールプレイ、協力ベースの活動、モチベーションを高める物語の使用、振り返りやグループディスカッション活動など、社会情動的スキルの発達につながるような学習アプローチと手法を用いている。保育者たちはさらに、子どもがストレスや感情をより適切に管理できるように、リラクゼーションやマインドフルネスの手法も取り入れている。インドネシアにおける幼児期の社会情動的スキルの発達のために行っている保育者たちの取り組みは、子どもが直面する社会的困難を乗り越え、後に訪れる複雑な社会的インタラクションに備えるためにも非常に重要である。

従って、インドネシアの園における主任保育者が幼児期の社会情動的スキルを理解することは、子どもたちのホリスティックな発達を支援する学習環境の構築に大きな影響を与える。主任保育者はこの分野の理解を継続的に向上させることで、子どもが優れた社会情動的スキルを身につけ、将来の成功に備えられるよう支援する上で、効果的な役割を果たすことができる。

子どものレジリエンスの育成については、レジリエンスについてよく分かっていない主任保育者の理解を向上させることが重要である。幼児期におけるレジリエンスの概念と育成

戦略について特別な研修を行うことは、主任保育者の理解とスキルを高める効果的なステップとなり得る。また、主任保育者が保育室で子どもたちに支援的なアプローチを提供するのにも役立つ。

逆境から立ち直り、感情を制御し、友達と調整する子どもの能力は生活の中で育てるべきものである。子どものレジリエンスの重要性は社会情動的スキルと共にカリキュラムで明確に規定する必要がある。幼稚園の保育者が拠り所とする子どものレジリエンスの概念と指標を明確にしなくてはならない。この調査の結果は、園の全ての保育者が教育者として、子どものレジリエンスを強化するためのサポートを提供し、学習体験をモデル化して創出するという重要な役割を担っていることを示している。インタビューを受けた保育者の1人は、プロジェクトベースの学習活動など、子どものレジリエンスを育むことができる学習活動を多く取り入れていると述べている。さらに、保育者より教育経験の長い主任保育者は、問題を克服するための賢明な考え方を子どもたちに教えている。若い保育者にとって、レジリエンスの概念を理解することは、自分の役割を理解し、保育室の内外でレジリエンスの発達を促す学習環境をつくり出すことの重要性を認識するのに役立つ。保育者がレジリエンスを理解することで、子どものニーズに応じた様々な戦略を通じて直面する困難や障壁に対処しながら、レジリエンスを教育実践に組み入れる方法について、保育者たちの間でディスカッションや内省が促進されるであろう。

保育者たちは、子どもが日常生活の中でどのようにレジリエンスを発揮するか、例えば、クラスメートとの対立をどう克服するか、課題に取り組む際の失敗にどう対処するか、新しい環境にどう適応するかなどについて、自分の体験談や観察を通して発見したことを共有することができる。また、肯定的なフィードバックを与え、望ましい行動を褒めることを重視した活動を取り入れることもできる。子どもが適切な行動を見せたり、困難を乗り越えたりした時に褒めて、評価する。主任保育者たちは肯定的なフィードバックを与えることで、子どもが挑戦し続け、障害に直面した時のレジリエンスを育てる意欲を高めることができる。

幼児期のレジリエンスと社会情動的スキルに対する保育者の理解を向上させるには、全ての子どもたちの可能性を伸ばす保育者としての役割を振り返ることから始める必要がある。保育者は自分の役割を認識することで、子どものレジリエンスと社会情動的スキルの発達を手助けする意欲を高めることができる。保育者のスキル開発は、自己学習、セミナー、ワークショップ、研修への参加など、様々な方法で行うことができる。政府もまた、保育者た

ちが、レジリエンスや社会情動的スキルの育成を含め、学習者の可能性を伸ばすための優れた実践を共有する際に、互いにサポートし合えるオンラインプラットフォームを提供することで支援する。

全体として、保育者たちが日々実践している特定の活動や取り組みは、子どものレジリエンスと、関連する社会情動的スキルの発達に大きく寄与している。保育者たちはさらに、感情を制御し、協調性を育て、前向きな社会的インタラクションを促す戦略など、家庭で子どもの社会情動的スキルとレジリエンスの発達を支援する方法について、保護者にアドバイスを提供している。園児の社会情動的スキルを育成する上で、親の育児スタイルを向上させることは課題の1つとなるだろう。計画的かつ測定可能な刺激が保育施設だけではなく家庭でも強化されるように、子どもの社会情動的スキルの重要性について地域社会や保護者に教育を提供する必要がある。子どもたちの活動に対する園、保護者、地域社会の連携により、状況に即した社会情動的スキルの強化を目指すことができる。保育者たちは、ホリスティックかつ発達指向のアプローチを通じて、子どもたちが困難を克服し、人生で成功するために必要なスキルを身につけることができるよう支援することができる。

さらに、幼児教育・保育施設の運営者も、主任保育者たちの間でレジリエンスの概念の理解と実践を促進する上で重要な役割を果たす。レジリエンスの育成を支援し、奨励する園長や施設長は、保育者がレジリエンスについて学習し能力開発を続けられるような職場環境を提供する可能性が高い。主任保育者にとって、上司のサポートは、レジリエンスの理解を深め、実践するための強力な推進力となり得る。さらに、主任保育者同士の連携も、レジリエンスへの理解を深める効果的な手段となり得る。グループディスカッション、経験談の交換、ベストプラクティスの共有は、主任保育者たちが教育実践においてレジリエンスの概念を適用する際に、互いをサポートし、学び合うのに役立つ。これにより、幼児教育・保育施設に動的な学習文化を生み出すことができる。

このように、レジリエンスの概念を説明することは、インドネシアの若い保育者の認識と実践に大きな影響を与える可能性がある。保育者たちは、レジリエンスの重要性に関する深い理解と、現場での具体的な事例に裏付けられた学習体験を通じて、人生の成功に必要なレジリエンスと社会情動的スキルを子どもたちが身につけるよう効果的に支援することができる。